

特別史跡

西都原古墳群

発掘調査・保存整備概要報告書（XXI）



2018. 3

宮崎県教育委員会

例 言

1. 本書は文化庁の補助を受け、宮崎県教育委員会が実施した「西都原古墳群調査整備活性化事業」の平成 30 年度事業概要報告書である。
2. 発掘調査は宮崎県教育委員会が事業主体となり、宮崎県立西都原考古博物館が実施した。
3. 発掘調査及び保存整備の実施地点は、下記のとおりである。
西都原 101 号墳：宮崎県西都市大字三宅字東立野 4700 番 9（保存整備）
第 1 支群横穴支群：宮崎県西都市大字三宅字原口 3943 番 1（発掘調査）
4. 本書の執筆・編集は、宮崎県立西都原考古博物館学芸普及担当主事 留野優兵が担当した。
5. 発掘調査で出土した遺物は、同博物館にて保管している。

目 次

第 I 章 発掘調査及び整備の経緯	1
第 1 節 既往の整備事業	
第 2 節 西都原古墳群調査整備活性化事業	
第 II 章 第 1 支群横穴墓群の発掘調査	2
第 III 章 西都原 101 号墳の保存整備	3

第 I 章 発掘調査及び整備の経緯

第 1 節 既往の整備事業

西都原古墳群は、1912（大正元）年から 1917（同 6）年にかけて、我が国最初の古墳の学術的・組織的調査が実施された後、1934（昭和 9）年 5 月 1 日に国の史跡に、1952（昭和 27）年 3 月 29 日には、特別史跡に指定された。後の追加指定を経て、現在の指定面積は、約 58 万 m²に及んでいる。そして、1966（昭和 41）年から 1969（同 44）年まで、最初の『風土記の丘』として整備事業が行われ、以後、史跡公園としての環境維持や古墳の保護が図られてきた。

その状況を踏まえた上で、宮崎県教育委員会では「史跡の保護」に加えて「活用」という観点から 1993・1994（平成 5・6）年度に「西都原古墳群保存整備検討委員会」を設置し、1994 年度末に『西都原古墳群保存整備基本計画』をまとめ、それに基づき 1995（同 7）年度より新たな整備事業に着手している。

1995（平成 7）年度から 2002（同 14）年度にかけては文化庁の補助事業である「大規模遺跡総合整備事業」（1997（同 9）年度より「地方拠点史跡等総合整備事業」）を活用し、発掘調査の成果を基にした古墳の復元整備工事や環境整備、見学施設の建設、土地公有化などが行われた。

その後、2003（平成 15）年度から 2007（同 19）年度には「西都原古墳群歴史ロマン再生空間形成事業」の事業名で、46 号墳の発掘調査や 111 号墳の墳丘復元工事などを実施し、2008（同 20）年から 2013（同 25）年度には「西都原古墳群活用促進ゾーン整備事業」の事業名で、46・47・201・202・284 号墳の発掘調査や 46・47・202 号墳の墳丘復元工事などを実施した。

第 2 節 西都原古墳群調査整備活性化事業

宮崎県教育委員会では、2013（平成 25）年度に前述の『西都原古墳群保存整備基本計画』を上位計画と位置づけた上で、新たな整備実施計画を策定し、2014（同 26）年度より標記事業に着手している。

当該事業は、西都原古墳群における発掘調査・整備保存が果たした学術的・文化的・社会的役割を踏まえつつ、古墳群を保存・継承していこうとする機運の醸成、歴史と文化を活かした魅力あるまちづくりなど地域の活性化を促進するもので、発掘調査や調査終了古墳の整備保存のほか、これまでに整備が終了した古墳の再整備なども計画している。

2018（平成 30）年度は第 1 支群内で確認された横穴墓群について、墓道の規模・形状、平面的な分布状況の確認を目的とした発掘調査を実施したほか、発掘調査地点の北側で地中レーダー探査を実施した。また 2015（同 27）・2017（同 29）年度に発掘調査を実施した 101 号墳について、墳丘の復元を中心とした整備を実施した（第 1 図）。

第Ⅱ章 第1支群横穴墓群の発掘調査

第1支群の中央付近に存在する谷の東縁辺では、地中レーダー探査によって5箇所程度の反応が確認され、反応のあった地点は酒元ノ上横穴墓群と立地上の類似点が認められることから、これらが横穴墓である可能性が指摘されていた(第1図)。横穴墓であるとするれば、西都原古墳群の構成や末期の様相を考える上できわめて重要な知見を提供するため、2017(平成29)年度に地中レーダー探査結果の検証や、横穴墓の基数・分布・墓道の規模・形状の確認を目的とした調査を実施した。5箇所のトレンチを設定し、4基の墓道を確認した。そのうち3基は地中レーダー探査の反応に対応する場所で見つかり、1基は玄室が崩落した横穴墓であることを確認した。

2018(平成30)年度の調査では、2017(同29)年度の調査で確認した墓道の規模・形状、平面的な分布状況の確認を目的として11箇所のトレンチを設定した(第2図)。結果、2・4トレンチで各1基、5トレンチで2基の墓道を検出した(第3図)。墓道は南から1号～4号墓道と呼称する。5トレンチで検出した1・2号墓道を対象に墓道を掘削して閉塞の状況を確認した。また、2号墓道と接続する天井が崩落している玄室については、遺物保護のために内部の調査を実施した。

地表面で検出された墓道の規模は、1号墓道が南北3.4m×東西7.2m、2号墓道が南北2.4m×東西4.9m、3号墓道が南北2.5m×東西4.8m、4号墓道が南北2.9m×東西9.2mを測る。このうち、1号墓道はトレンチの外に伸びるため東西の全形を確認できなかった。墓道のプランはくさび形を呈し、長軸は南西方向に伸びている。

1号墓道を半裁すると墓道の床面は、検出面から約1.6m掘り込まれた標高約57.0mで平坦になっていた。床面から10cm上で伏せられた状態の土師器椀が完形で出土した。また、墓道の東端では閉塞石を検出しており、その脇から据えられた横瓶が出土した。土層を観察すると水平に堆積する土層を切る形で掘り込みが見えることから、追葬が行われたと考えられる。この掘り込みからは、須恵器甕の破片が撒かれたような状態で出土している。

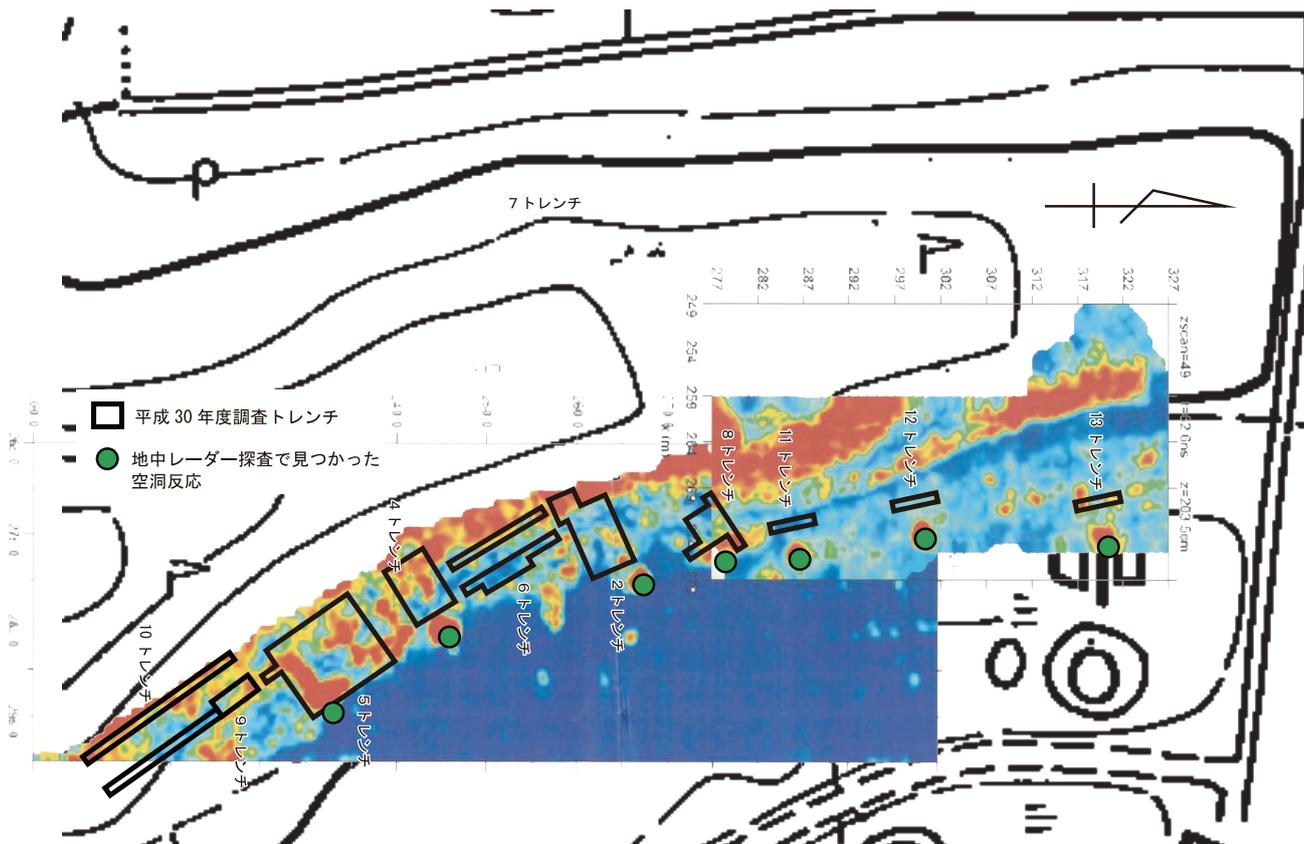
2号墓道の床面の最深部は検出面から約1.3m掘り込まれた標高約57.0mである。羨道の入り口は人頭大の石を積み上げて閉塞されていた(表紙写真)。閉塞石の周囲は一段掘り込まれており、約0.15mの標高差が墓道の床面との間にある。羨道の入り口は平入りで、玄室は両袖・楕円形の平面プランを持つ。玄室の床面からは、耳環、勾玉、切子玉などの装飾品が出土した。

横穴墓群の平面的な分布状況の確認を目的として、6～10トレンチを設定したが、どのトレンチからも横穴墓の墓道と考えられるプランは検出されなかった。5トレンチの南側に設定した9・10トレンチでは、地表下約30cmで人頭大の礫が堆積する礫層を確認した。

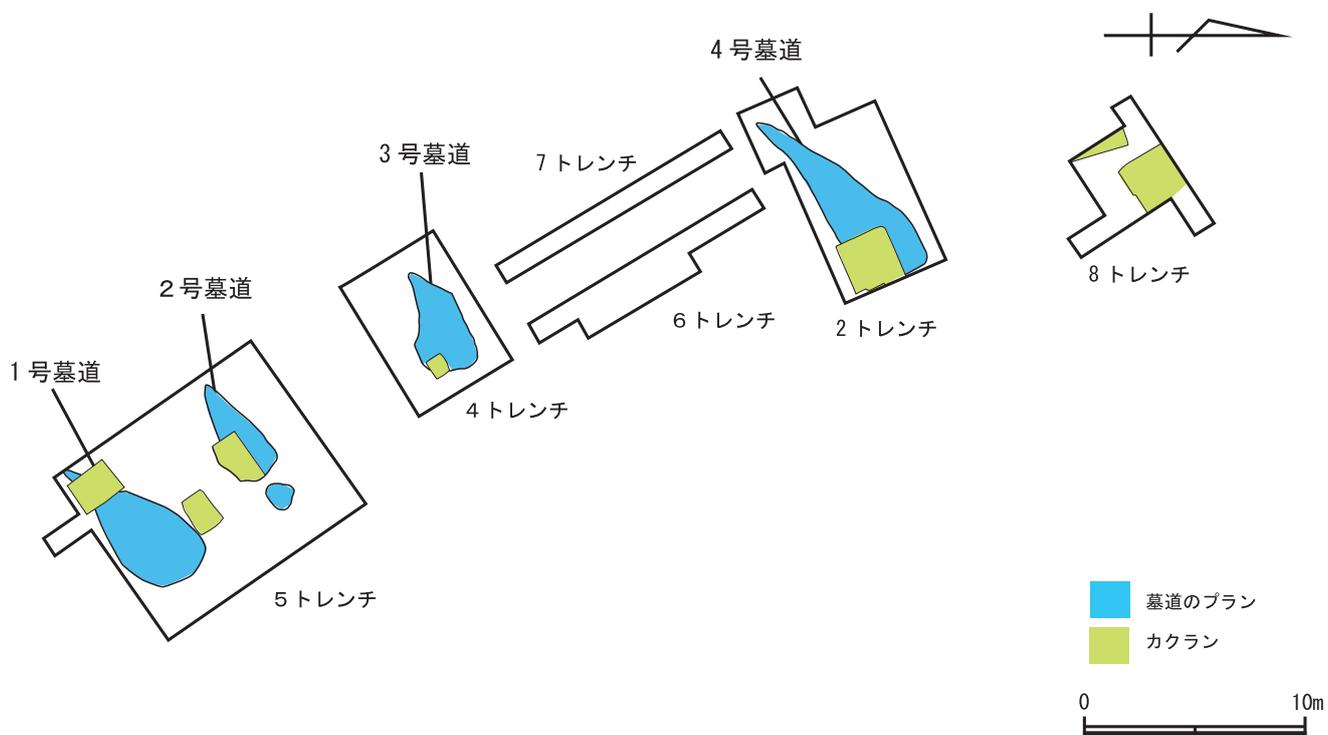
調査地が位置する谷はさらに北に続いており、地中レーダー探査では横穴墓の玄室と考えられる反応が確認されていたため、今回、追加で地中レーダー探査を行った。その結果、玄室の可能性が考えられる空洞反応を3箇所検出した。性格の特定のため墓道が存在すると考えられる位置に11～13トレンチを設定し、遺構の有無を確認した。



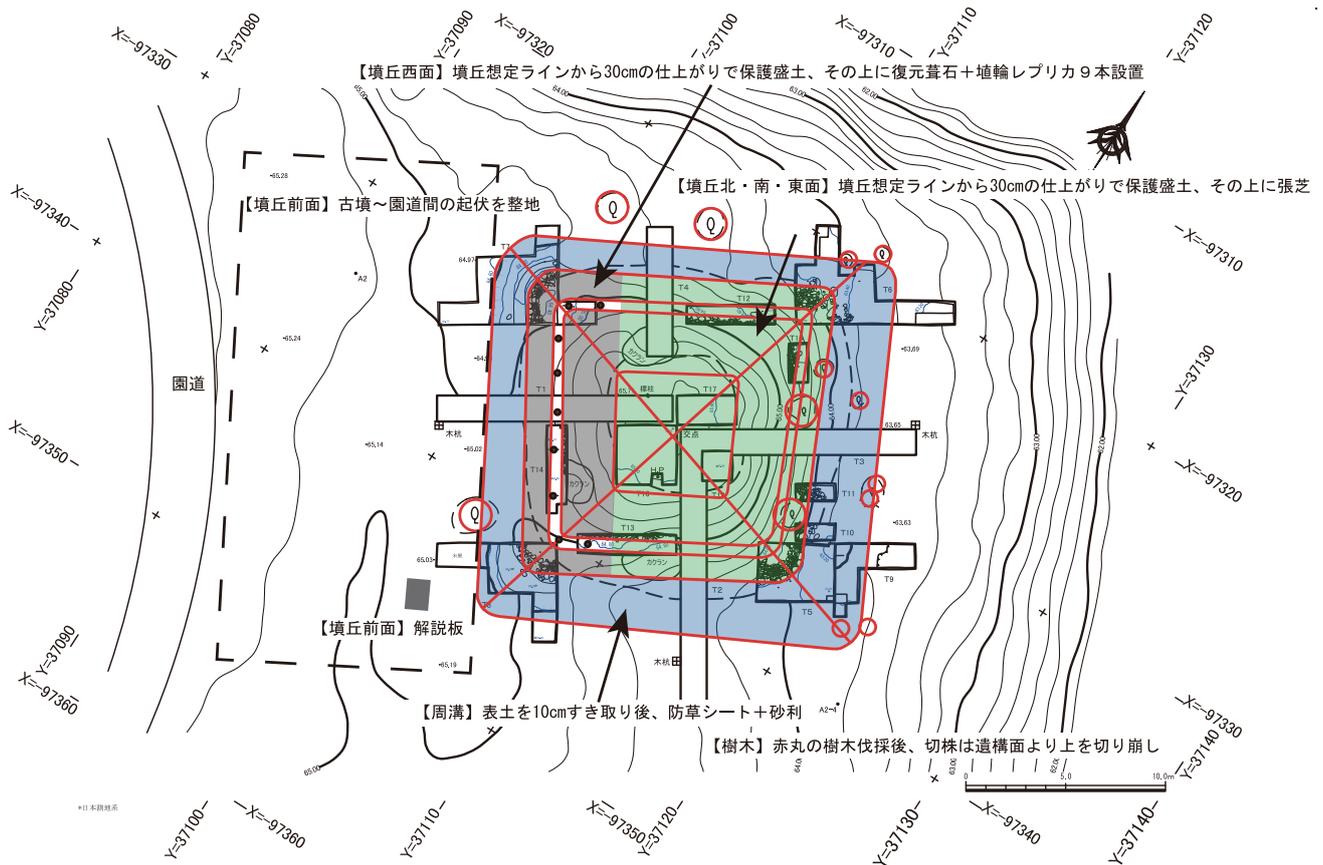
第1図 発掘調査・復元整備古墳の位置図



第2図 第1支群横穴墓群トレンチ配置図 (S=1/800)



第3図 第1支群横穴墓群墓道配置 (S=1/400)



第4図 西都原101号墳の墳丘復元案 (S=1/400)

第三章 西都原101号墳の保存整備

101号墳は、西都原台地東縁部に沿って展開する第2支群の北東端に位置する。2015（平成27）・2017（同29）年度の発掘調査で、西都原古墳群では2基目の方墳であることが確定したほか、墳丘の形態や樹立された埴輪の様相などにおいて、それまで唯一の方墳とされてきた171号墳（女狭穂塚の陪塚）と密接な関係が想定されるなど、きわめて重要な意味を持つ古墳であることが明らかとなった。そのため、墳丘の盛土復元によって方墳であることを示し、部分的な葺石や埴輪の復元も行うことで101号墳の重要性を示すこととした。

工事は2か年にわたって実施し、2018（平成30）年度の工事では墳丘の盛土、復元葺石・埴輪レプリカの設置、張芝、周の防草シート敷き込み、化粧砂を行い、2019（平成31）年度には古墳～園道間の整地、解説板の設置を行う。

写真1 第1支群横穴墓群5トレンチ

1・2号墓道検出状況（南西から）

2017（平成29）年度調査の5トレンチを拡張した。南側（写真右）が1号墓道、北側（写真左）が2号墓道である。写真奥は4トレンチである。



写真2 第1支群横穴墓群5トレンチ

2号墓道検出状況（北西から）

2号墓道は2017（平成29年度）の調査で、一部掘削している。くさび形を呈する墓道の東側（写真上）にある黒色土は、玄室の天井崩落部分である。



写真3 第1支群横穴墓群4トレンチ

3号墓道検出状況（西から）

2017（平成29）年度調査の4トレンチを拡張した。





写真4 第1支群横穴墓群2トレンチ
4号墓道検出状況（西から）

2017（平成29）年度調査の2トレンチを拡張した。東側（写真上）の羨道の入り口が位置すると考えられる部分が、植樹の際に掘り込まれてしまっている。



写真5 第1支群横穴墓群5トレンチ
1号墓道土層断面（南から）

水平に堆積する埋土を掘り込むラインを検出した。追葬の際に掘り込まれたものと考えられる。この掘り込みからは、須恵器甕の破片が出土した。



写真6 第1支群横穴墓群5トレンチ
1号墓道閉塞石検出状況（西から）

閉塞石と共に据えられた横瓶が出土した。閉塞石のうち、追葬の際に取り外されたものが、墓道の床面に散乱していた。

写真7 第1支群横穴墓群5トレンチ
2号墓道完掘（西から）



写真8 第1支群横穴墓群5トレンチ
2号墓玄室内完掘（西から）

玄室の北側床面からは、耳環、切子玉、
菅玉などが出土した。



写真9 101号墳の工事状況（南から）
崩落した二段築成の墳丘を復元し、葺
石、張芝を行った。



報告書抄録

ふりがな	とくべつしせき さいとぼるこふんぐん はくつちょうさ・ほぞんせいびがいはうほうこくしよ							
書名	特別史跡 西都原古墳群 発掘調査・保存整備概要報告書							
副書名								
巻次	X X I							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	留野 優兵							
発行機関	宮崎県教育委員会（宮崎県立西都原考古博物館）							
所在地	〒880-8502 宮崎県宮崎市橘通東1丁目9番10号 (〒881-0005 宮崎県西都市大字三宅字西都原西5670)							
発行年月日	2019（平成31）年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
だい1しぐんよこあなぼぐん 第1支群横穴墓群	さいとしおおあざみやけあざはらぐち 西都市大字三宅字原口3943番1	45208				2018.12.27～ 2019.3.31	276㎡	史跡整備関連
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	古墳	古墳	横穴墓	須恵器・土師器・縄文土器 ほか		横穴墓の墓道を検出すると共に、天井の崩落した玄室を調査した。		

特別史跡 西都原古墳群 発掘調査・保存整備概要報告書（X X I）

2019年3月31日

発行 宮崎県教育委員会（宮崎県立西都原考古博物館）
〒880-8502 宮崎県宮崎市橘通東1丁目9番10号
(〒881-0005 宮崎県西都市大字三宅字西都原西5670)

印刷 藤屋印刷株式会社
〒883-0045 宮崎県日向市本町6-5
TEL 0982(52)7171 FAX 0982(56)1208

